教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 看護学科　　資格： 教授　　氏名： 寳田　穂

研究分野	研究内容のキーワード
看護学	精神看護、アディクション、薬物依存、グループアプローチ、慢性の病いの言いづらさ、援助職支援
学位	**最終学歴**
博士（看護学）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科 精神看護学専攻　修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1.系統看護学講座 専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学［2］第4版、医学書院	2013年1月発行	一部執筆（第5版：2017年2月発行） 医学書院が発行している看護学教育の教科書の中で、精神看護学分野の教科書の一部を執筆した。
2.日本精神科看護技術協会認定看護師養成「薬物・アルコール依存症看護」	2010年7月	精神科認定看護師養成研修会の教科書
3.教員免許状更新研修会テキスト	2010年5月	教員免許状更新研修会「学校生活における保健上の課題と対策」の中で、「薬物依存症と予防」に関する講義のためのテキスト教材を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.大阪市こころの健康センター「地域における断薬継続促進モデル事業」スーパーバイザー	2017年～2019	大阪市こころの健康センターが実施しているモデル事業におけるスーパーバイザーおよび関連する講習会の講師
2.ＥＰＡ　看護導入研修「精神看護学」講師	2010年～2012年	経済連携協定（EPA）に基づく看護師候補者受入れにおける「看護導入研修」にて、精神看護学（1コマ/年）
3.日本精神科看護協会の依頼による研修会講師	2002年～現在	日本精神科看護協会（旧 精神科看護技術協会）の主催する、看護師を対象とした研修会（認定看護師養成研修含む）における、「対人関係」「グループアプローチ」「アディクション」「セルフヘルプグループ」等に関する研修会講師
4.日本看護協会（支部）研修会の講師		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.看護師	1980年5月6日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.アディクション問題にかかわる看護師へのインタビュー調査（サンフランシスコ）	2014年11月15日～2014年11月23日	米国サンフランシスコにおいて、薬物依存症者への看護を実践している看護師へのグループインタビューをおこなった。また、薬物依存症治療施設での見学研修や、日本で実践している看護師のサポートグループについて、スーパーバイズを受けた。 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））「ｱﾃﾞｨｸｼｮﾝ問題にかかわる看護師支援ﾓﾃﾞﾙの試案作成」の一部
2.アディクション問題にかかわる援助職支援に関するフィールド調査（サンフランシスコ）	2013年11月16日～2013年11月22日	米国サンフランシスコにおいて、アディクション問題をもつ回復支援に取り組んでいる施設の視察を行い、研究協力への依頼および今後のインタビュー調査の予定について検討した。 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））「ｱﾃﾞｨｸｼｮﾝ問題にかかわる看護師支援ﾓﾃﾞﾙの試案作成」の一部
3.薬物依存症回復支援団体Freedomによる薬物依存症回復支援システムの調査（サンフランシスコ）	2003年3月15日～2003年3月21日	サンフランシスコの薬物依存症治療施設及びドラッグコートを訪問し、サンフランシスコの薬物依存症回復

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4.大阪市立大学在外研究員（D項）（ボストンにおける薬物依存症看護に関する調査）	2001年8月23日～2001年8月31日	支援システムについてフィールドワークを行った。薬物依存症者への看護に関する研究―ボストンにおける薬物依存治療システム及び看護の実態調査を行った。
5.大阪市立大学国際学術交流派遣（サンパウロ大学学術交流）	2001年7月24日～2001年8月9日	大阪市立大学国際学術交流派遣　サンパウロ大学学術交流。ブラジル連邦共和国サンパウロ市で、精神医療における薬物依存症者への看護の現状調査を行った。
6.スイス赤十字とライナウ精神病院研修（スイスにおける精神科看護に関する研修）	2000年4月29日～2000年5月7日	スイス赤十字社、州立ライナウ精神病院（精神科看護、ファンタジーセラピーの体験学習）、州立ライナウ病院デイケア・ナイトケア施設、ブルクホルツリ大学精神病院博物館での見学及び講義を受けた。また、ファンタジー・セラピー（精神療法）についての体験学習を行った。
7.ワークシェアリング研究会米国研修（サンフランシスコにおける精神障害者地域リハビリテーションに関する研修旅行）	1998年9月7日～	アメリカ・サンフランシスコで、精神障害者の雇用支援を中心として、次の施設を訪問し、精神障害者の地域生活支援のフィールドワークを行った。
8.看護師としての精神医療現場における臨床経験	1995年1997年度	精神科病院の閉鎖病棟にて、重症慢性期および急性期の精神障害を有する患者の看護を経験した。また、病棟コミュニティ・ミーティングや家族懇談会の企画・運営を行い、患者・家族への集団療法的アプローチを継続して行った。さらに、薬物依存症患者への看護の検討グループに属し、治療/看護プログラムの企画や運営を行った。
9.看護師としての救命救急現場における臨床経験	1981年～1984年度	大学病院の外傷専門救命救急センター（災害外科）にて、外来・集中治療室・回復室での看護を経験した。一般的な救命救急看護や、特に、頭部外傷で意識及び精神の障害が生じた患者、外傷体験や集中治療室の環境によって精神的に不安定となった患者、自殺行為による外傷患者、精神障害を合併する患者の看護の看護を経験した。
10.看護師としての精神科医療における臨床経験	1980年～1981年度	昭和55年からの2年間、大学病院精神科・神経内科病棟にて、精神障害・認知症・重症てんかん・睡眠障害・神経系疾患（神経難病）などを有する患者の看護を経験した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.翻訳書　看護診断ハンドブック第12版 7.自己知覚パターン、10. コーピング-ストレス耐性パターン	共	2023年2月	医学書院、	L.J.Carpenito:Handbook of Nursing Diagnosis 16th Edition, Lippincott, USA, 2017の翻訳 担当箇所：541-589、795-804
2.クロニックイルネスにおける「言いづらさ」と実践領域モデル		2022年2月	みらい	黒江ゆり子　編　全246頁 担当頁：15-32、60-73、130-144、161-165
3.看護診断ハンドブック 第11版（翻訳）	共	2018年3月	医学書院	L.J.Carpenito:Handbook of Nursing Diagnosis 15th Edition, Lippincott, USA, 2017の翻訳 担当カ所：pp461-524、pp727-729
4.アディクション・パーソナリティ障害の看護ケア	共	2017年11月	中央法規	医学的な知識をわかりやすくまとめているほか、クロスアディクションへの対応など、多くの実践事例をまとめた（内容紹介より）。 本人担当カ所：監修、プランニングのポイント、pp74-82
5.集団精神療法の実践事例30）	共	2017年4月	創元社	グループは、医療現場のみならず、地域保健、福祉、矯正、教育など多方面で活用されているが、その中核を担う集団精神療法となる

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				と、まだまだその実践事例は少ないのが現状である。本書は、研修・福祉・教育・医療領域での、ユニークな30の実践事例を詳細に取り上げることで、その多様な展開と自由で柔軟な臨床のあり方の中から、今後のグループの未来を探ろうとする（内容紹介より）。 本人担当カ所：精神科認定看護師資格取得のためのグループに関する研修、pp64-74
6.ドラッグ問題をどう教えるか	共	2013年8月	解放出版	薬物の問題は、いずれの時代においても重要な社会的問題である。性別や職業等の違いにかかわらず、あらゆる立場の人の逮捕が、後をたたない。ダメ、ゼッタイといった規制だけでは、薬物乱用の防止は困難な現状にある。本書では、もう一歩踏み込んで、学校など子どもの薬物乱用防止教育に携わる大人、主に中学、高校の教師に向けて企画し、 養護教諭、保健師、看護師、精神科医、弁護士、薬物依存からの回復者など多様な分野の執筆により、理論編と具体的なQ&A、ワークシートといった構成での実践的な入門書である。 本人担当部分：監修、「はじめに」、「８．ドラッグ問題への取り組みと感情」(p.72-77)、他「Ｑ＆Ａの一部分」
7.アディクション看護学	共	2011年9月	メヂカルフレンド社	看護学生をはじめ，精神科・一般科の看護師や看護管理者，地域で働く看護職者を対象とした、アディクション問題にかかわるための知識・技術を修得をねらった解説書。 本人担当部分：第Ⅶ章－2－「薬物依存症」(p.215-224)
8.アディクション看護	共	2008年8月	医学書院	依存症からメタボまで、「意思の障害」に苦しんでいる人たちへの看護について、アディクションといった捉え方での解説書。様々なアディクションの領域が記されている中で、「薬物依存症と看護」に関する部分を担当した。日本や海外における文献検討や、実際の体験、自身の研究結果を用いながら、薬物依存症の回復システムやその看護についての知識や理解を深められるような内容を論じた。 本人担当部分：Ⅱ－2「薬物依存症と看護」（p.74-101）
9.薬物・アルコール依存症看護	共	2008年7月	精神看護出版	日本精神科看護技術協会の精神科認定看護師制度の研修会での利用を主たる目的とした「実践　精神科看護テキスト」のシリーズの中の一書籍。薬物・アルコール依存症に関する書籍中、薬物・アルコール依存症者におけるセルフヘルプグループについて、歴史や意味、実際などについて論じた。 本人担当部分：第四章「セルフヘルプグループ」（p.132-146）
10.Ａ子と依存症－絶望と回復の軌跡－	共	2007年12月	晃洋書房	女性の依存症に焦点をあてた書籍。摂食障害、薬物依存症、ギャンブル、ＤＶといったアディクションの現状と回復支援について、当事者、支援者、研究者などの様々な立場で回復や回復支援について論じている。その中で、看護の現状や支援のあり方への提言について記した。 本人担当部分：第六章「薬物依存症者への回復支援において看護は何ができるのか」（p.165-184）
11.クロニックイルネス　人と病いの新たなかかわり（翻訳）	共	2007年5月	医学書院	（原書：Lubkin,I.M. & Larse,P.D.ed.(2002).Chronic Illness: Impact and Interventions 5th.） 本人担当部分：第12章「無力感」（Onega,L.L. & Larsen,P.D.著、Powerlessness）(p.233-243)、第23章「長期ケア」（Barnes,S.J.著、long-term Care）(p.433-451) 共訳者名：黒江ゆり子（監訳）、河井伸子、市橋恵子、中岡亜希子、北原保世、田中克子、山崎裕美子、森川浩子、田中結華、鬼塚哲郎、寳田穂、奥宮暁子、藤澤まこと、古城門靖子、グレッグ美鈴、普照早苗
12.糖尿病のケアリング（翻訳）	共	2002年4月	医学書院	（原書：Edelsich & Brodsky(1998). Diabetes: Caring for your emotions as well as your health.） 本人担当部分：第4章「適応の段階」（Stages of adaptation）(p.78-104)、第5章「選択と賭け」（The choices and the stakes）(p.105-138) 共訳者名：黒江ゆり子、市橋恵子、寳田穂
13.慢性疾患の病みの軌跡　コービンとスト	共	1995年1月	医学書院	（原書： Woog, P. ed.(1992).The chronic illness trajectory framework: The Corbin and Strauss nursing model.）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
ラウスによる看護モデル　（翻訳）				本人担当部分：第5章　慢性の精神疾患－始まりも終わりもない軌跡－（Rawnsley, M.M.著、The Chronic Mental Illness: Timeless trajectory）(p.77 -98) 共訳者名：黒江ゆり子、市橋恵子、寶田穂
2 学位論文				
1.博士論文「薬物依存症者をケアする看護師とピアスタッフの体験　～ケアにおける無力感の意味～」	単	2007年3月	日本赤十字看護大学大学院	薬物の乱用や依存に関連する問題は世界的に問題となっており、日本も例外ではない。精神保健医療福祉の領域も、その対策における役割を担うものの、薬物依存症者への看護の系統的な研究は行われておらず、その意味も明らかではない。そこで、本研究では、薬物依存症者と薬物依存症者の看護やケアに携わっている看護師、回復支援施設のピアスタッフの語りから、薬物依存症者への看護の意味を明らかにすることを目的とした。本論文では、看護師の体験とピアスタッフの体験を描き出し、既に発表した薬物依存症者本人の体験とも関連づけながら、薬物依存症者への看護の意味を考察した。その結果、薬物依存症者へのケアにおいて感じる無力感が、ケアの意味に変化をもたらすターニングとなっていることが明らかとなった。ケアの質の向上には、看護師が無力感をターニングとして、成長できるような、支援が必要である。
2.修士論文「精神科病棟における患者間の相互作用の諸相」	単	1997年3月	日本赤十字看護大学大学院	「精神科病棟において、患者同士が日常どのようにかかわり合い影響し合っているのかを描きだし、その意味を考察すること」を目的として、精神科亜急性期病棟にて、参加観察を行った。得られたデータを、帰納的に分類し、患者間において、“援助行動”と呼ぶにふさわしい相互作用が頻繁に起こっていることが明らかとなった。患者たちは、援助することを欲し、援助せずにはいられない様子であった。その心理にはサールズの提唱する治療的欲動の存在が考えられた。また、患者間の援助行動に内在する問題も明らかとなった。
3 学術論文				
1.高齢者入所施設における精神障害者へのケアの現状と課題（第二報）　―施設で生活する高齢精神障害者の語りを通して―	共	2022年6月	日本精神保健看護学会誌、31（1）、19-28	高齢者入所施設で生活する高齢精神障害者の語りを通して,援助職者から受けるケアに関する体験を描き出し,施設における精神障害者へのケアの課題を考察した。 著者：鷺 忍, 寶田 穂, 和泉 京子, 德重 あつ子
2.高齢者入所施設における精神障害者へのケアの現状　―施設で働く援助職者の語りを通して―	共	2020年11月	日本精神保健看護学会誌、29(２)、pp50-59	高齢者入所施設で働く援助職者の語りを通して,精神障害者へのケアに関する体験を描き出し,高齢者入所施設における精神障害者へのケアの課題を考察した。 著者：鷺 忍、寶田 穂、和泉 京子
3.看護系文献にみる精神科長期入院高齢者の地域移行に向けての課題	共	2019年5月	日本精神保健看護学会誌、27（1）、91-99	精神科長期入院高齢者の退院支援や地域移行へ向けた課題を看護文献から明らかにすることを目的に、医学中央雑誌Web版を用い、精神保健福祉法が施行された1995年から2017年に発表された文献を対象に検索を行い、得られた19件を分析した。 本人担当部分：研究全体を通して 著者：鷺忍、寶田穂
4.精神科長期入院患者の退院支援における課題　長期入院を体験した統合失調症をもつ人の語りを通して	共	2018年6月	日本精神保健看護学会誌、27（1）、91-99	精神科長期入院の体験を有する人の語りを通して、入院から退院に至るまでの体験を描き出し、その体験から退院支援に向けての課題を考察することを目的とした。精神科病棟において1年以上2年未満の長期入院を体験している5名を対象とした。参加者たちの語りからは、入院生活において、どうすればさまざまな規則に慣れ、困りことや災いを避けることがで、居心地の良い生活ができるかを考えながら行動できる力を感じることができた。したがって、入院生活では、どうすれば社会のさまざまな規則に慣れ、社会生活・日常生活上の困りことや災いを避け、居心地の良い地域生活ができるか、それを患者とともに考えることが患者の退院支援においても重要な要素であると考えられた。 本人担当部分：研究全体を通して 著者：鷺忍、寶田穂、心光世津子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5.職場での体験を語ること　グループを通した中堅看護師の感情知性(EI)の育成	共	2016年6月	日本精神保健看護学会誌、25（1）、pp.19-28	看護師は日常的な感情労働の代償として共感疲労に陥る危険性が高く、職場における自らの感情面での健康状態に気づき、対処する必要がある。そのためには、感情知性(emotional intelligence:EI)と呼ばれる能力が重要であると言われている。そこで本研究では、病棟チームの柱となって働いている中堅看護師を対象として言語による交流を中心としたグループを毎月1回、計10回行い、そこで語ることが中堅看護師のEI育成に有用であることを実証的に明らかにすることにした。研究参加者は総合病院に勤務する実務経験4年以上の中堅看護師7名である。結果として、参加者たちは仕事にまつわる不安や管理者への期待と不満を徐々に語りだし、それが過去の体験とつながりがあることに気づいた。こうして彼らは、グループの中で新たな他者への信頼と自信を取り戻していった。 本人担当部分：計画・考察 著者：古城門 靖子赤沢 雪路，曽根原 純子，武井 麻子，寶田 穂
6.研究と発表、倫理	単	2011年6月	学会誌 集団精神療法、27(1)、p.55-59	集団精神療法に関する研究および発表における倫理的側面について、臨床研究や看護研究の倫理的側面と比較検討しながら、適応と課題について論じた。
7.７つのライフストーリーに描き出された他者への「言いづらさ」	共	2011年6月	看護研究、Vol.44(3)、p.298-304	慢性の病いをもつ7人の人へのインタビューを通して描き出された体験をもとに、一人一人の言いづらさの意味について検討しながら、言いづらさが意味するものについて考察をした。 本人担当部分：データ収集、分析 共著者名：黒江ゆり子、寶田穂、市橋恵子、森谷利香、中岡亜希子、古城門靖子、田中結華、河井伸子
8.精神障がいに対するセルフスティグマから解放されたＣさんのライフストーリー		2011年6月	看護研究、Vol.44(3)、p.268-273	精神障がいをもつCさんにインタビューを行い、ライフストーリーにおける言いづらさを伴う体験を描き出した。Cさんにとって、精神障がいへのセルフスティグマが、病気に関することを言いづらくさせていた。医療者や同じ障がいをもつ仲間との関係の中で、自然に語れるようになったCさんは、言う人には言うが言わなくてもいい人には言わないと、言うことが辛い体験ではなくなっていた。 本人担当部分：全行程 共著者名：寶田穂、古城門康子
9.慢性の病いにおけるライフストーリーインタビューから創生されるもの	共	2011年6月	看護研究、Vol.44(3)、p.237-246	「慢性の病いにおける言いづらさ」の研究において、「言いづらさ」に着眼する背景および看護学的意義について、論じた。研究全体の緒言にあたる部分。 本人担当部分：資料提供、考察 共著者名：黒江ゆり子、寶田穂、藤澤まこと
10.言いづらさ」は何を意味するのか	共	2011年6月	看護研究、Vol.44(3)、p.305-315	慢性の病いをもつ6人の人へのインタビューを通して描きだされた体験をもとに、言いづらさに関連する体験が意味することについて考察した。その結果、言いづらさの体験は、①その人自身の混乱や葛藤、②自分に生じていることへの受け入れづらさ、③周囲の人にわかってもらいにくい、といった意味があることが示唆された。 本人担当部分：データ収集、分析、執筆 共著者名：寶田穂、黒江ゆり子、市橋恵子、中岡亜希子、森谷利香、古城門靖子、田中結華
11.アディクション問題にかかわる看護師支援について：語り合える場としてのグループ	単	2010年3月	大阪市立大学看護学雑誌、Vol.6 、p.59-61	薬物依存症の回復のためのグループとしては、セルフヘルプ・グループの意義が大きい。一方で保健医療機関では治療グループが、矯正施設では教育・指導グループが行われている。また、家族やボランティアといった回復に関わる支援者たちの間でもグループが行われている。そこで本論文では、薬物依存症の回復のための多様なグループの概観を述べ、それらのグループが一人ひとりの薬物依存症者の回復を支えるためには何が必要か考察した。
12.薬物依存症者の回復とグループ	単	2009年6月	学会誌 集団精神療法、Vol25(1)、p.25-31	薬物依存症の回復のためのグループとしては、セルフヘルプ・グループの意義が大きい。一方で保健医療機関では治療グループが、矯正施設では教育・指導グループが行われている。また、家族やボランティアといった回復に関わる支援者たちの間でもグループが行われている。そこで本論文では、薬物依存症の回復のための多様なグループの概観を述べ、それらのグループが一人ひとりの薬物依存症者の回復を支えるためには何が必要か考察した。
13.薬物依存症者への看	単	2009年6月	日本精神保健看護	薬物依存症者への看護の実践経験を有する看護師に半構造化インタ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
護における無力感の意味　－看護師の語りより－			学会誌、Vol.18(1)、p.10-15	ビューを行い、看護の体験を描き出し、薬物依存症者への看護の意味を明らかにした。その結果、看護師と薬物依存症者の感情には「無意識の対称性」がみられた。看護師は、薬物依存症者に「巻き込まれない」「負けない」ように看護を継続するも、薬物をやめさせることは困難だった。看護の限界や無力に気づいた看護師は、葛藤しながらも、患者との対話を大事したコラボレイティヴな関係を築いていった。看護の限界や無力に気づくことは、看護の質の変化へのターニングとなっていた。また、薬物依存症者への看護には、患者とのコラボレイティヴな関係を通して相互に成長できる意味があると考えられた。
14.薬物依存症者にとっての精神科病棟への入院体験　－複数回の入院を体験した人の語りから－	共	2006年9月	日本精神保健看護学会誌Vol.15(1)、p.1-10	寳田穂、武井麻子
15.精神看護における「生活者」という視点について	共	2006年9月	看護研究、Vol.39(5)、p.39-44	古城門靖子、寳田穂
16.看護研究において人々の「生活」を知るための方法　―インタビューで生じること―	共	2006年9月	看護研究、Vol.39(5)、p.101-109	寳田穂、黒江ゆり子、中岡亜希子
17.日本における薬物依存症患者への看護に関する文献的考察	単	2005年3月	大阪市立大学看護学雑誌Vol.1、p.11-19	
18.依存症専門病棟のない病院における薬物依存症患者の入退院状況　－受け入れ初期の現状にみる看護への課題－	共	2003年12月	病院・地域精神医学、Vol.46(3)、p.94-103	寳田穂、須藤藍子、松本広子、山尾幸子
19.2年間に亘り「拒否」し続けた患者と看護婦のかかわり　－患者－看護婦関係にみる悪循環－	共	2002年5月	日本精神保健看護学会誌11（1）、p.43-49	白柿綾、寳田穂
20.依存症専門病棟のない病院における薬物依存症者の入退院状況　―1999年度一年間の考察―	共	2001年9月	病院・地域精神医学、44（3）、p.89-91	寳田穂、須藤藍子、川原稔、山尾幸子、有我譲慶
21.精神科病棟における患者間の援助行動の諸相	単	1999年6月	日本精神保健看護学会誌、8（1）、p.1-11	
22.今にして病棟家族懇談会を考える　―家族の発言からの学び―	共	1999年3月	病院・地域精神医学、42（1）、p.66-68	寳田穂、疋田慎介、小林将元、大黒靖久、武田恵子、有本進
23.急性期受け入れ閉鎖病棟における薬物依存症者の看護 ―専門病棟のない病院での現状―	共	1998年8月	精神科看護、25（6）、p.15-20	武田恵子、寳田穂、川原稔
24.精神分裂病患者の早期退院に関与する精神症状及び日常生活・社会生活上の機能障害との関連	共	1998年2月	日本看護学会誌、6（1）、p. 36-45	稲岡文昭、西村俊彦、福士千代、須藤秀利、野方俊郎、小林あきみ、寳田穂

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
25.臨床看護実習における学生の学習に対する思い・行動と実習の楽しさ	共	1994年11月	奈良文化女子短期大学紀要、25、p.111-121	寳田穂、黒江ゆり子
26.看護における人間のとらえ方（２）－カリスタ・ロイ理論の考察－	共	1994年11月	奈良文化女子短期大学紀要、25、p.123-135	黒江ゆり子、寳田穂
27.臨床看護実習における学生の疲弊と学習意欲	共	1994年6月	日本精神保健看護学会誌、3(1)、p.64-73	寳田穂、黒江ゆり子
28.看護における人間のとらえ方　－マーサ・ロジャース理論の考察－	共	1993年11月	奈良文化女子短期大学紀要、24、p.107－117	黒江ゆり子、寳田穂
29.臨床看護実習における学生の状態不安STAIとBURNOUT傾向	共	1992年11月	奈良文化女子短期大学紀要、23、p.191-200	寳田穂、黒江ゆり子
30.看護学講座の成果と課題	共	1992年11月	奈良文化女子短期大学紀要、23、p.201-216	坂本雅代、弓田洋子、寳田穂
31.行動観察による痴呆患者の精神状態評価尺度(NMスケール)および日常生活動作能力評価尺度(N-ADL)の作成	共	1988年11月	臨床精神医学17（11）、p.1653-1668	小林敏子、播口之朗、西村健、武田雅俊、福永知子、井上修、田中重実、近藤秀樹、新川久義、山下真理子、溝口幸枝、若松都志子、寳田穂、十祖恵子
32.各種看護操作の頭蓋内圧に及ぼす影響	共	1986年8月	救急医学、10（8）、p.1003-1008	畑恵子、寳田穂、松原美津子、安藤邦子、阪本敏久、定光大海、大橋教良、杉本侃、澤田裕介
33.意識レベルの評価法（Glasgow Coma Scale）の効果的運用法について	共	1984年11月	看護技術、30（15）、p.46-50	畑恵子、寳田穂、松原美津子、安藤邦子、大橋教良、澤田裕介
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.語ること、書くこと、そして読むこと　病いの「語り」を「聴く」　無知の姿勢	単	2020年9月	日本慢性看護学会誌、14巻、p19	シンポジスト
2.看護における多様性と感情		2016年9月	第15回日本アディクション看護学会　会長講演、p21	大会長、会長講演
3.地域が生き活きするレジャー・レクリエーションの可能性　－看護におけるレクリエーション－		2015年12月	日本レジャー・レクリエーション学会　第45回学術大会（シンポジウム）、p.21	シンポジスト
4.薬物依存への看護　－ドラッグ問題をどう教えるか－		2015年9月	第46回日本看護学会－精神看護－学術集会（教育講演）、pp.32-33	教育講演
5.看護・介護者のこころの健康問題の実際		2005年2月	大阪市立大学医学部看護学科　講演・シンポジウム	シンポジスト
6.薬物依存とHIV感染症－看護の関わりと役割		2003年11月28日	第17回日本エイズ学会学術集会、サテライトシンポジ	シンポジスト 薬物依存症と看護援助の現状

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
7.薬物依存を超えて		2000年11月30日	ウム 主催：HIV/AIDS看護研究会 京都市こころの健康増進センター「こころの健康講座」	シンポジスト 薬物依存電話相談について
8.精神保健看護学の方法　フィールドワークの経験		1998年7月29日	日本赤十字看護大学　ミニシンポジウム	シンポジスト 患者集団の治療的関係に焦点をあてて
２．学会発表				
1.急性期病棟で働く看護師の就労継続上の困難感と課題　～インタビューを用いた質的研究～		2023年12月	第43回日本看護科学学会学術集会抄録集	下垣直弥、寳田　穂
2.Presence of “shame” in addiction recovery support -A review of national and international medical literature-	共	2023年3月	26th East Asian Forum of Nursing Scholars	Nishiyama N, Takarada M, Taniguchi T, Takita K
3.アディクション看護における価値観についての理論的考察 A.H.マスロー理論の文献検討より	共	2022年6月	第32回日本精神保健看護学会学術集会	寳田 穂、夛喜田 惠子、谷口 俊恵、西山 直毅
4.総合病院における精神科身体合併症病棟の看護の役割	共	2022年6月	第32回日本精神保健看護学会学術集会、97	小西 美樹，寳田 穂
5.精神科病棟における長期行動制限の緩和に向けた看護ケア	共	2022年6月	第32回日本精神保健看護学会学術集会、93	矢野 美也，寳田 穂
6.アディクション問題にかかわる看護職者支援プログラムの評価：実施後の質的インタビューの結果から	共	2021年12月	第41回日本看護科学学会学術集会、P20-39	寳田 穂、夛喜田惠子、谷口俊恵
7.西宮市保健所における COVID-19対応の検証 2報第4波 での病床逼迫下の自宅療養者支援		2021年11月	第80回日本公衆衛生学会総会、 P24-65	稲田 綾子、後藤 眞理、藤原 万貴、久保田 朝幸、小田 照美、 和泉 京子、徳重 あつ子、金谷 志子、寳田 穂、福田 典子
8.西宮市保健所における COVID-19対応の検証 1報第1～4 波の感染動向と保健所対応	共	2021年11月	第80回日本公衆衛生学会総会、P24-64	後藤 眞理、稲田 綾子、藤原 万貴、久保田 朝幸、小田 照美、 金谷 志子、徳重 あつ子、和泉 京子、寳田 穂、福田 典子
9.市町村保健師が働き続けるための課題 －20年以上の経験を有する保健師の語りから－	共	2020年7月	日本精神保健看護学会　第30回学術集会、0-015	川口 眞由美、寳田 穂、心光 世津子
10.精神障害者が高齢者入所施設で受けるケアの課題　－入所者の語りを通して―		2020年7月	日本精神保健看護学会　第30回学術集会、0-005	鷺 忍、寳田 穂、和泉 京子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
11.精神科訪問看護における意思決定支援に関する課題　－精神科訪問看護師の語りから－	共	2020年7月	日本精神保健看護学会　第30回学術集会、O-004	西口 典子、寳田 穂、心光 世津子
12.アディクション問題にかかわる看護職者支援プログラムの評価：実施前後のアンケート結果から	共	2019年12月	第39回日本看護科学学会学術集会、p. PC-33-09	寳田 穂、夛喜田 惠子、谷口俊恵
13.Difficulty in Telling to Others about Chronic Illness: Based on Life Stories and Japanese Literary Works	共	2019年10月	Transcultural Nursing Society 45th Annual Conference	Yuriko Kuroe, Minori Takarada, Yuka Tanaka
14.Current Issues in Care for Elderly Residents with Mental Illness in Nursing Homes in Japan	共	2019年6月	ICN Congress 2019 Singapore	Minori Takarada, Toshie Taniguchi, Keiko Takita
15.The educational program for nurses working in the field of addiction : Focus on emotional supports	共	2019年6月	ICN Congress 2019 Singapore	Minori Takarada, Toshie Taniguchi, Keiko Takita
16.労働者における精神的健康の維持・回復を支えるその人自身の力	共	2018年11月	第26回日本産業ストレス学会、p176	鈴木 典子、寳田 穂
17.アディクション問題にかかわる看護師のためのサポートグループの意義－計50回のｸﾞﾙｰﾌﾟの実践を通して	共	2018年6月	日本精神保健看護学会第28回学術集会、p174	寳田 穂、高間さとみ、夛喜田 惠子
18.Difficulty in Telling to Others, Iizurasa, Experienced by People Suffering from Intractable Neurological Disease in Thei Daily Lives in Japan	共	2017年10月	Transcultural Nursing Society 43rd Annual Conference、p28	Yuriko Kuroe、Minori Takarada、Akiko Nakaoka、& Riko Moriya
19.The Model of Emotional Support for Nursing Professionals in Substance use Treatment: From the Results of the Interview Studies on Nurses in the USA and Japan	共	2017年10月	Transcultural Nursing Society 43rd Annual Conference、p27	Minori Takarada、Nahoko Nishizawa、Keiko Takita、& Toshie Taniguchi

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
20.地域で生活している統合失調症をもつ人にとっての精神科への長期入院体験	共	2017年6月	日本精神保健看護学会　第27回学術集会　プログラム・抄録集、p139	鷺　忍・心光　世津子・寳田　穂
21.地域で生活している統合失調症をもつ人にとっての精神科への長期入院体験	共	2017年6月	日本精神保健看護学会　第27回学術集会　プログラム・抄録集、p139	演者：鷺　忍・心光　世津子・寳田　穂
22.”Difficuty in Telling to others” Experienced by Peoplr Living with Chronic Illness	共	2016年10月	Transcultural Nursing Society 42nd Annual Confernce, Cincinnati, OH, p30	Yuriko Kuroe & Minori Takarada
23.Qualitative research on the changes among nursing professionals in substance use treatment	共	2016年3月	19th EAFONS, Chiba Japan, pp103-104	Minori Takarada, Nahoko Nishizawa, Satomi Takama, Keiko Takita & Toshie Taniguchi
24.薬物依存症における他者への「言いづらさ」	単	2015年9月	第14回アディクション看護学会学術集会、p.39	
25.The importance of emotional support group for nurses involved in the treatment of patients with substance use problems and their families	共	2015年6月	ICN Conference 2015, p.53	Satomi Okumura, Minori Takarada & Keiko Takita
26.大学病院一般科病棟での精神症状を有する患者の看護における困難なことがら	共	2013年11月	第26回　日本総合病院精神医学会総会	岡本理英、小林美保、稲田律子、寳田穂、
27.慢性の病いにおける他者への言いづらさ　－看護職者のストーリーから見いだされる“配慮”について－	共	2012年6月	第6回日本慢性看護学会学術集会	黒江ゆり子、寳田穂、市橋恵子、他
28.看護事例研究/報告にみる長期入院患者の退院の目的	共	2012年6月	第22回日本精神保健看護学会学術集会	西川裕美、高間さとみ、寳田穂
29.アディクション問題にかかわる看護師サポートグループの検討　－語られた話題の特徴に焦点をあてて－	共	2012年6月	第22回日本精神保健看護学会学術集会	寳田穂、夛喜田恵子、高間さとみ
30.薬物依存症者への看護における質的変化の様相や特徴	共	2011年12月	第31回日本看護科学学会学術集会	寳田穂、高間さとみ
31.慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」　看護職者のストーリーから	共	2011年5月	日本慢性看護学会誌、5巻1号 Page A63	黒江 ゆり子，市橋 恵子，寳田 穂，藤澤 まこと，田中 結華，鈴木 靖子，中岡 亜希子，森谷 利香，河井 伸子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
32.　慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」が意味するもの　5つのライフストーリーより	共	2010年12月	第30回日本看護科学学会学術集会	黒江ゆり子、寳田穂、市橋恵子、他
33.パーキンソン病と言いづらさ	共	2010年6月	第4回日本慢性看護学会	中岡亜希子、黒江ゆり子、寳田穂、他
34.こころの病いと言いづらさ	共	2010年6月	第4回日本慢性看護学会	寳田穂、鈴木靖子、黒江ゆり子、他
35.薬物依存症者への看護における限界や無力の意味	単	2008年8月	第39回日本看護学会　精神看護、第39回日本看護学会精神看護抄録集、p.71	
36.Nursing Care of Recovery Process for the Patient with Drug Addiction	共	2008年2月	The11thEAFONS The Future of Doctoral Nursing Programs in Asia: Cooperation & Integration across Nations (Taiwan)	Minori TAKARADA, Chie KURATA, Kaori TAUCHI, Uriko KUROE
37.薬物依存症からの回復と共感される体験－４人の女性の回復における困難と対処の語りから－	共	2007年	第6回学術集会日本アディクション看護学会大会抄録集,28	寳田穂、倉田智恵
38.薬物依存症者にとっての入院体験の意味　その2 －複数回の入院体験をもつ当事者の語りから－	共	2003年12月	日本看護科学学会学術集会講演集Vol.23, p.249	寳田穂、武井麻子
39.学生主導による医療面接の学習とSP養成	共	2003年7月	医学教育学会、医学教育学会Vol.34、p77	森村美奈、金田朋也、村松武、野垣健、酒井未来、寳田穂、中村志朗、津村圭
40.薬物依存症者にとっての入院体験の意味　その1 －1回の入院体験を有する者の語り－	共	2003年5月	第12回　日本精神保健看護学会　総会・学術集会、抄録集：p.74-75	寳田穂、武井麻子
41.依存症専門病棟のない病院における薬物依存症者の入退院状況　その2 -1998年から3年間の考察-	共	2001年6月	第11回　日本精神保健看護学会　総会・学術集会、録集：p.80-81	寳田穂、須藤藍子、松本広子、山尾幸子、有我譲慶、岡田俊
42.我が国の看護学関係文献にみる薬物依存症者への看護	単	2000年6月	第10回日本精神保健看護学会・学術集会、抄録集：p62-63	
43.わが国におけるエイズNPOの実態と展望	共	1999年12月	第13回日本エイズ学会学術集会・総会、抄録集：p.270	鬼塚哲朗、市橋恵子、黒江ゆり子、佐藤和久、白阪琢磨、寳田穂、花立都世司
44.今にして病棟家族懇談会を考える	共	1998年10月	第41回日本病院・地域精神医学会総会、抄録集：p.103	寳田穂、疋田槙介、小林将元、大黒靖久、武田恵子、有本進
45.精神科病棟における	単	1997年12月	第17回日本看護科	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
患者間の相互作用-患者間の援助行動の意味-			学学会・学術集会、抄録集：p.382-383	
46.精神科病棟における患者間の相互作用-患者間の援助行動の諸相-	単	1997年7月	第７回日本精神保健看護学会・学術集会、抄録集：p.31-12	
47.保育室に設置されたコンピュータに対する園児の行動２	共	1996年5月	日本保育学会、第49回、抄録集：p.890-891	上原明子、竹内和子、山本真由美、寶田穂、倉戸直実、倉戸幸枝、渡辺純、山本泰三、広利吉治、小澤武夫、村上優、小野和、若江真紀
48.保育室に設置されたコンピュータに対する園児の行動1	共	1996年5月	日本保育学会、第49回、抄録集：p.888-889	竹内和子、上原明子、山本真由美、倉戸直実、渡辺純、倉戸幸枝、山本泰三、村上優、広利吉治、寶田穂、小澤武夫、小野和、若江真紀
49.臨床看護実習における学生の疲弊と実習の楽しさ	共	1995年7月	第５会日本精神保健看護学会・学術集会	寶田穂、黒江ゆり子
50.コンピュータ関連授業科目の開設状況 ―保育者養成校における「コンピュータに関するアンケート（学部・学科用）から	共	1995年5月	日本保育学会、第48回大会	小澤武夫、倉戸直実、渡辺純、倉戸幸枝、山本泰三、宏利吉治。竹内和子、上原明子、山本真由美、寶田穂、村上優、若江真紀、小野和
51.教員のコンピュータにたいする意識について　-保育者養成校における「コンピュータに関するアンケート」から-	共	1995年5月	日本保育学会、第48回大会、	竹内和子、上原明子、山本真由美、倉戸直実、渡辺純、倉戸幸枝、山本泰三、村上優、広利吉治、寶田穂、小澤武夫、小野和、若江真紀
52.教員のコンピュータに対する姿勢と使用状況	共	1994年10月	全国保母養成協議会、第33回研究発表、抄録集：p.146-147	渡辺純、倉戸直実、倉戸幸枝、山本泰三、広利吉治、竹内和子、上原明子、山本真由美、寶田穂、村上優、若江真紀、小野和、小澤武夫
53.コンピュータ設置に関する現状分析	共	1994年10月	全国保母養成協議会、第33回研究発表、抄録集：p.144-145	倉戸直実、渡辺純、倉戸幸枝、山本泰三、広利吉治、竹内和子、上原明子、山本真由美、寶田穂、村上優、若江真紀、小野和、小澤武夫
54.保育科学生の「子どもが好き」について　-他学科の学生との比較から-	共	1994年5月	全国保母養成協議会、第33回研究発表、抄録集：p44-45	倉戸幸枝、倉戸直実、渡辺純、山本泰三、上原明子、山本真由美、寶田穂
55.幼児とコンピュータ（２）コンピュータへのアプローチ	共	1994年5月	日本保育学会、第47回、抄録集：p.33	山本真由美、倉戸直実、渡辺純、倉戸幸枝、山本泰三、竹内和子、上原明子、広利吉治、村上優、若江真紀、寶田穂
56.幼児とコンピュータ（1）家庭用テレビゲームに対する親の意見と子どもの心身の発達について	共	1994年5月	日本保育学会、第47回、抄録集：p.32	広利吉治、倉戸直実、渡辺純、倉戸幸枝、山本泰三、竹内和子、上原明子、村上優、山本真由美、若江真紀、寶田穂
57.臨床看護実習における学生の心理状態―BURNOUT傾向―	共	1993年7月	日本精神保健看護学会　総会・学術集会、第3回，抄録集：p.29-30	寶田穂、黒江ゆり子
58.安静時心拍数の解釈について	共	1991年9月	日本看護研究学会雑誌、14巻3号 Page58-59	寶田穂、土屋尚義、金井和子
59.看護操作におけるICPの変動	共	1984年11月	第12回　日本救急医学総会、抄録集、p324	畑恵子、寶田穂、松原美津子、安藤邦子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
1.本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態と健康行動	共	2021年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル(2424-0303)6巻Page79-89	松井 菜摘，阪上 由美，新田 紀枝，田野 晴子，桧山 美恵子，和泉 京子，寳田 穂，徳重 あつ子，宮嶋 正子，久山 かおる，早川 りか，谷澤 陽子，阿曽 洋子
2.看護における多様性と感情	単	2017年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル、2、pp7-11	
3.アディクション・ライブラリーを企画 アディクションについて「語る本」の図書館	単	2017年3月	精神看護、20（2）、pp146-153	
4.薬物乱用や依存の問題をもつ人の回復支援における看護職のあり方　－拒否の連鎖から支援の連鎖へ－	単	2015年4月	公衆衛生、79（4）、pp.237-240	
5.書評「組織のストレスとコンサルテーション　対人援助サービスと職場の無意識」	単	2015年3月	精神看護、18（２）、p201	
6.アディクション問題にかかわる看護師支援についての研究 2011年度報告	共	2012年3月	大阪市立大学看護学雑誌、18巻Page57-58	寳田 穂，高間 さとみ，夛喜田 惠子
7.人権をまもるための看護を考える　精神障がい者の人権擁護とケア	単	2011年3月	大阪市立大学看護学雑誌、7巻Page98-101	
8.アディクション問題にかかわる看護師支援についての研究 サポートグループに焦点をあてて　中間経過報告	共	2011年3月	大阪市立大学看護学雑誌、7巻Page71-72	寳田 穂，高間 さとみ，夛喜田 惠子
9.薬物依存症をもつ当事者の活動と看護 ～価値観の揺らぎを通して見えてくる患者―看護師関係とは～	単	2008年9月	精神科看護、Vol.35(9)、p.12-17	
10.卵から雛がかえるように　－「回復させる」より「回復の場」づくり－	単	2006年2月	精神科看護、Vol.33(2)、p.78-81	
11.病院と地域の間にかけ橋を	単	2003年7月	精神看護、Vol.6(4)、p.50-55	
12.ダイナミックな学びの場としての実習環境　－精神看護学実習の一例から考える－	単	2003年4月	精神科看護、Vol.30、p.20-24	
13.サンパウロ市の薬物依存症ケアの現状（後編）治療・リハビリエーションの場を訪れて	単	2002年2月	精神看護、5（2）、p.70－74	
14.サンパウロ市の薬物	単	2001年12月	精神看護、5	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
依存症ケアの現状（前編）治療・リハビリテーションの場を訪れて			（1）、p. 69-74	
15.「感情労働」この言葉に誘発されて	単	2001年6月	精神看護、4（4）、p.66-69	
16.フィールドワークの経験（研究者として臨床に入る）患者間の関係に焦点をあてて	単	1999年11月	看護管理、9（11）、p.874-878	
17.重症な患者さんの回復のイメージと看護職の手立て	単	1999年6月	精神看護、2（4）、p.30-37	
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.研究報告書：アディクション問題にかかわる看護職者支援プログラム　－作成へのプロセスと実施例－	単	2024年3月13日	科学研究費補助金　2017年度～2021年度「基盤研究C」研究報告書 全74頁	研究代表者：寳田 分担者：多喜田恵子、髙間さとみ、谷口俊恵
2.慢性の病におけるクライアント領域と「言いづらさ」をふまえた支援のあり方　－ＲＡに焦点をおいて看護師の語りから―	共	2023年9月	第17回日本慢性看護学会学術集会、交流集会	黒江ゆり子、寳田穂、藤澤まこと、房間美恵、柴田万智子
3.研究報告書：Ⅳ．ＲＡとともにある人々と生活についての解釈	単	2023年3月	代表　黒江ゆり子：慢性の病いにおける「言いづらさ」を包摂する看護理論の事例研究法に基づく実証的研究（令和2年～令和4年度科研研究費補助金「基盤（Ｃ）」研究成果報告書　　100頁 担当頁46－49	
4.アディクション問題にかかわる看護職者支援プログラム　～　アディクションを理解し、看護に活かす　～	共	2022年6月	第32回日本精神保健看護学会学術集会、交流集会	
5.慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」に関する知の構築	共	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会、交流集会、No K19（電子抄録）	黒江 ゆり子、寳田 穂、田中 結華、市橋 恵子、中岡 亜希子、森谷 利香、藤澤まこと
6.慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」の事象と先行要件に導かれる看護のあり方	共	2015年12月	第35回日本看護科学学会学術集会（交流集会）、p.198	黒江 ゆり子、寳田 穂、田中 結華、藤沢 まこと、中岡 亜希子、森谷 利香、市橋 恵子、河井伸子、古城門 靖子
7.アディクション問題にかかわる援助職者	共	2015年9月	第14回アディクション看護学会学	寳田 穂、奥村さとみ、夛喜田恵子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
サポートグループ 2015			術集会（交流集会）、p.26	
8.アディクション問題にかかわる援助職者サポートグループ 2016	共	2015年9月	第15回アディクション看護学会学術集会（交流集会）、p.62	永見もも子、寳田 穂、奥村さとみ
9.アディクション問題にかかわる看護師の	共	2014年6月	第23回日本精神保健看護学会学術集会ワークショップ	寳田穂、夛喜田惠子、高間さとみ
10.アディクション問題にかかわる看護師のサポートグループ	共	2013年6月	第23回日本精神保健看護学会学術集会ワークショップ	寳田穂、夛喜田惠子、高間さとみ
11.慢性の病における他者への「言いづらさ」 －看護職者のストーリーから－	共	2011年6月	第5回日本慢性看護学会　交流集会	黒江ゆり子、寳田穂、市橋恵子、他
12.慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」	共	2010年6月	第4回日本慢性看護学会　交流集会	黒江ゆり子、市橋恵子、藤澤まこと、寳田穂、他
13.冊子：こころの健康出前講座プログラム講師参考資料（実施にむけて）	共	2009年5月	日本精神科看護技術協会	こころの健康に関する人々の関心は高く、健康問題で苦しんでいる人も増加している。そこで、精神科医療に従事する看護師が、知識と体験に基づいたこころの健康に関する講義を提供すること（出前講座）によって、人々の精神保健医療福祉への理解を深める助けとなると考える。しかし、多くの看護師が、知識や体験を講義等で伝えることにはなれていない。精神科医療に従事する看護師が講師として普及啓発活動ができるように、「講師を引き受ける際に確認する事項」や「講義案の立て方」を理解し、正しい知識や経験に基づいた内容の出前講座の実施に向けて、講義全体をイメージした講義案を作成できるようにすることを目的に本冊子を作成した。
14.パンフレット：こころの健康SOS	共	2009年4月	日本精神科看護技術協会	日本精神科看護技術協会が実施している出前講座の資料として、一般向けのパンフレットを作成した。内容としては、こころの健康を生活上の出来事と関連づけ、健康が及びやかされた時の対応について記している。
15.研究報告書：心の病いと言いづらさ　～心の持ち方～	共	2008年3月	慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」についての研究 平成17年度～19年度科学研究費補助金「萌芽研究」研究成果報告書 総頁数：122頁	本研究は、慢性の病とともにある人々が病について他者に伝えるときに、どのような難しさがあるのかを明らかにすることを目的としている。文献レビュー、研究経過、各々の領域におけるライフヒストリーをまとめた平成17年度～19年度の報告書の中で、中間報告書で論じた部分に加えて、精神障がいをもつ人のストーリーを描き出した。（研究代表者：黒江ゆり子） 担当部分：pp.48-57、pp.92-100
16.研究報告書：薬物依存症からの回復過程における援助に関する研究	単	2007年5月	平成17年度～平成18年度科学研究費補助金基盤研究（Ｃ）報告書 総頁数：96頁	本研究は、「薬物依存症者の語りを通して、薬物に依存しない生活を取り戻す上での困難な状況や対処の特徴を描き出し、薬物依存症からの回復過程における適切な援助について考察すること」を目的としている。薬物依存症を患う11名にインタビューを行い、本報告では、そのうち４名の女性の語りを援助とセルフケアの視点から再構成し、それぞれのストーリーを描きだした。そして、その４人のストーリーからみた、援助について考察し、報告した。
17.研究報告書：慢性の病における他者への「言いづらさ」についての研究	共	2007年3月	平成17年度～19年度科研萌芽研究、平成18年度中間報告書 総頁数：75頁	本研究は、慢性の病とともにある人々が病について他者に伝えるときに、どのような難しさがあるのかを明らかにすることを目的としている。平成17年度は、慢性の病とともにある人々の生活を描くための研究方法の検討を行い、平成18年度は、慢性の病とともにあることに関連する書籍の抄読会を続けて、研究メンバーの研究方法についての認識の共有と研究姿勢の認識の共有を図った。これらの内容を、中間報告としてまとめた。（研究代表者：黒江ゆり子） 担当部分：pp.48-57
18.リーフレット：精神に作用する薬物と	共	2007年3月	社団法人大阪精神科病院協会	社団法人大阪精神科病院協会からの助成金で、大阪府からの「覚せい剤再発防止事業」委託を受け、リーフレットを作成した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
HIV/エイズ －薬物依存症のこと、HIV/エイズのこと考えてみませんか？－				日本におけるHIVの感染者は増加傾向にあり、薬物を使用しても無防備なセックスも感染のリスクとなる。そこで、HIVに感染しないよう、感染者であっても偏見に苦しむことなく、薬物依存症の回復プログラムを受けられるよう、人権的配慮に基づき、意識づけとした。
19.「精神的ケア」と「精神的疲労」	単	2007年3月	大阪市立大学看護学雑誌，3 巻，p. 82-83、シンポジウム	
20.翻訳：ライフストーリーインタビュー	共	2006年9月	看護研究、Vol.39 (5)、p.81-100	原書：R.Atkinson, Chapter6:The lifestory interview, In J.F. Gubrium & J.A.Holstein, HANDBOOK OF INTERVIEW RESEARCH: CONTEXT & METHOD, pp.121-140, 2001,Sage 訳者：黒江ゆり子、北原保世、その他（寳田、他）
21.研究報告書：薬物依存症者の回復における入院期間中の看護の意義・限界に関する研究	単	2004年3月	平成13年度～平成15年度科学研究費補助金　基盤研究（Ｃ）（２）報告書 総頁数：94頁	本研究は、「薬物依存症での入院体験を有する人」と「薬物依存症者への看護体験をする（した）人」の両者にインタビューを行い、その語りから、薬物依存症者の回復過程における入院期間中の看護の意義や限界を考察することを目的としている。薬物依存症での入院体験を有する人16名と看護師12名にインタビューを行い、それぞれの体験を描き出し、考察を加え、報告した。
22.冊子：薬物依存症者に、処罰よりも希望を「司法と薬物」を考える	共	2004年3月	Freedom（薬物依存症からの回復支援民間団体が出版） 総頁数：44頁	「拘置所に習慣中の薬物依存症者へのインタベンション・プログラム」（ファイザー製薬からの平成14年度・15年度の助成事業）。編集協力。 プロジェクトチーム：有馬純也、大槻和夫、掛樋美佐保、加藤武士、倉田めば、倉田ちえ、寳田穂、谷口伊三美、中原修、他8名
23.書籍：私たちの出会い 女性の薬物依存症 回復と支援	共	2004年3月	Freedom（薬物依存症からの回復支援民間団体が出版） 総頁数：118頁	薬物依存症の女性へのインタビューやリハビリテーション施設のスタッフたちの座談会方式でのグループインタビューを許可を得て録音し、逐語記録を作成。それらの内容を分析し、薬物依存症からの回復や回復支援に関するストーリーを描き出した。その結果、女性の薬物依存症者は、心的外傷の問題や、回復資源が乏しい状況が明らかとなった。回復支援に関しては、多領域の連携の必要性が明らかであった。
24.リーフレット：薬物依存症に苦しむご家族のために	共	2003年	Freedom（薬物依存症からの回復支援民間団体）	ファイザー製薬からの助成金で、薬物依存症を患う人の家族を対象とした、回復支援に向けてのリーフレットを作成した。
６．研究費の取得状況				
1.薬物依存症の回復支援と価値観の変容 ー当事者と看護職者の語りからー	共	2021年4月～現在	科学研究費補助金（基盤研究C）	代表者
2.慢性の病いにおける「言いづらさ」を包摂する看護理論の事例研究法に基づく実証的研究		2021年4月～2022	科学研究費補助金（基盤研究C）	代表：黒江ゆり子 分担者
3.薬物依存症者の家族の「言いづらさ」にかんする研究	共	2018年～2019	日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	分担者
4.慢性の病いにおける「言いづらさ」を基板とした看護理論の創成とその活用	共	2017年4月～2019	日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	代表　黒江ゆり子 分担者
5.アディクション問題にかかわる看護職者支援モデルに基づく支援プログラムの開発	共	2016年4月～2020	日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	代表者
6.アディクション問題	共	2013年4月～	日本学術振興会科	代表者

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
にかかわる看護師支援モデルの試案作成		2016年3月	学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	
7.慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」と看護のあり方を基盤とした看護理論の構築	共	2012年4月～2016年3月	日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	代表　黒江ゆり子 分担者
8.薬物依存症者への看護に関する質的変化の分析と理論基盤の構築	共	2009年4月～2013年3圧	日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	代表者
9.慢性の病における他者への『言いづらさ』と看護のあり方についての研究	共	2008年4月～2012年3月	文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））	代表　黒江ゆり子 分担者
10.慢性の病いにおける他者への『言いづらさ』についての研究	共	2005年4月～2008年3月	文部科学省科学研究費補助金（萌芽研究）	代表　黒江ゆり子 分担者
11.薬物依存症からの回復過程における援助に関する研究	単	2005年4月～2007年3月	文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））	代表者
12.女性薬物依存症者への回復支援調査事業	共	2003年4月～2004年3月	独立行政法人福祉医療機構「高齢者・障害者・福祉基金」助成事業	代表者
13.薬物依存症からの回復における入院期間中の看護の意義・限界について	単	2001年4月～2003年3月	文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））	代表者

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年～現在	西宮市介護認定審査委員会委員
2.2022年～現在	西宮市協愛奨学基金運営委員
3.2021年～現在	日本精神保健看護学会　評議員
4.2020年～2021年	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にかかる西宮市保健所業務への支援
5.2019年～2020年	日本精神保健看護学会　理事
6.2019年	日本臨床リウマチ学会 学会誌「臨床リウマチ」 査読
7.2018年	兵庫県看護協会　研修会　講師
8.2017年～2019年	大阪市こころの健康センター　研修会　講師
9.2017年	日本精神科看護協会兵庫県支部　研修会　講師
10.2017年	訪問看護ステーション　花みずきナースステーション　研修会　講師
11.2016年～2019年度	大阪市こころの健康センター「地域における断薬継続促進モデル事業（ケア会議）」スーパーバイザー
12.2013年～2018年	日本精神保健看護学会　代議員（旧　評議員）
13.2013年～2019年度	日本看護科学学会　和文誌専任査読委員
14.2012年～現在	日本精神保健看護学会　査読委員
15.2008年7月～2020	日本集団精神療法学会　教育研修委員会　職域別委員
16.2006年～2018年度	NPO法人　大阪ダルク・アソシエーション 理事
17.2006年	薬物依存症と感染症（ＨＩＶ）についての理解や予防に関する活動
18.2005年～2007年度	薬物依存症をもつ女性のための「ヘルス・サポート・グループ」企画・運営・実施
19.2003年	「女性薬物依存症者への回復支援調査事業」プロジェクトの企画・運営・実施（独立行政法人福祉医療機構（高齢者・障害者福祉基金）助成事業）
20.2002年～現在	薬物依存症回復支援　フリーダム　理事
21.2002年～2004年度	「拘置所に収監中の薬物依存症者へのインタベンション・プログラム」プロジェクトチーム・メンバー（ファイザー製薬「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」から大阪ダルクが助成金を得て実施）
22.～2020	日本アディクション看護学会　査読委員
23.～2020	日本精神科看護技術協会（旧　看護技術協会）　査読委員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
	科学研究費助成事業　第1段審査（書面審査）委員　平成26年度、27年度、29年度